婦人と新社會

山田わか主筆

五月號

每月一回一日發行　第三號　大正九年五月一日發行

東洋出版社發行

山田わか女史著

新刊 女・人・母

四六版本製
三百五十頁装禎美装
定價金壹圓七拾五錢
送料十二錢

【時事新聞曰く】著者が文明生活に就て婦人の立場より或は女性を論じ母性問題を識し人間の生命を説きたるもの縦横議論廿五編に至る最近の健全なる思想を得んとする現代の女人に薦む

發行所 東京市本郷春木町二丁目 振替東京八二一九番 森江書店

取次所 東京市本郷區湯島四ノ三 振替東京四一〇七七番 東洋出版社

ウイバー博士著 山田わか譯

八時間勞働の理論と實際

定價四十錢
送料二錢

發行所 東京市本郷區湯島四ノ三 振替東京四〇一七七番 東洋出版社

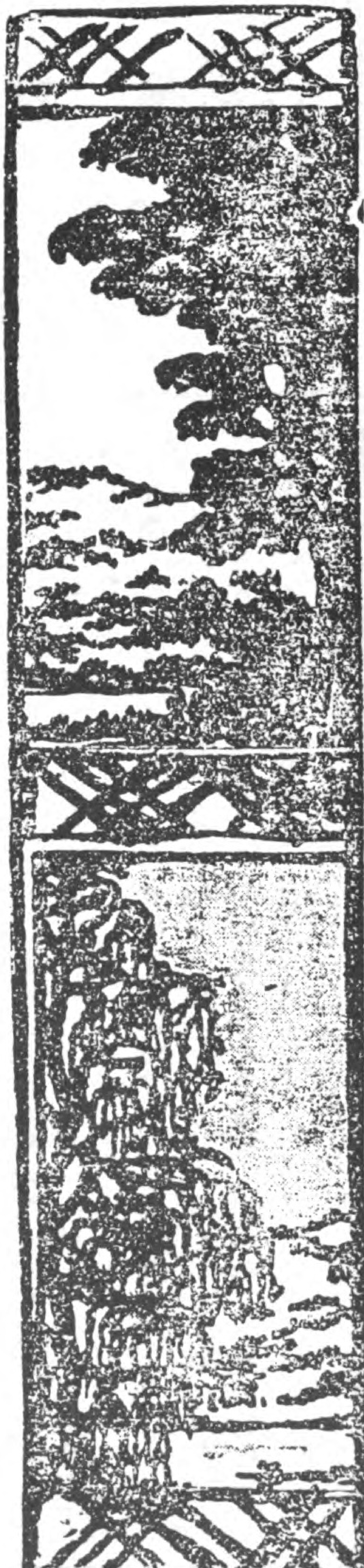
婦人と新社會

五月號

龜井戸大根が柏子木形に切られて朝の食膳の上にのつてゐる。『龜井戸のおはつね』と云つて其の香のものに箸をつけやうとすると、むしり殘された大根の白い毛が一本ピヨンとおつたつてゐる。百姓の手をぬけ、八百屋の手をくゞり下女にも見逃されて、其の大根の毛は來ぬ筈の食膳の上に迄 とう／＼來てしまつたのである。で 不圖思ひ起したのは自分がまだ子供の時分父や下男と一所に大根ごしらへをした時のことである。柿の木はすつかり裸になり、米は穀倉に納まり、芋は大方かこはれてしまつた頃、眞白な肌の大根が處々に黑い土をつけたまゝ井戸側の近くに積み上げられる。私達は其の廻りにたかつて、あか葉をとり毛をむしり、そして、洗ひ上げて近くの町へ送り出すのである。

自分が時々一本二本の大根の毛を目殘しすると父親が『毛はすつかり取らなければいけない』と云ふ『なぜ』との自分の問ひに對して『北を向いてはへて居た毛を食べたものは肺病になるから』と父親は云ふ。自分が『けれど、こうして畑からぬいてしまつたものなどの毛が北を向いてゐたか南を向いてゐたか分りはしない』と云ふのに對して『それだから、一本も殘らないやうにとらなければならないのだ。自分達の不注意が他人樣を肺病などにしてはすまないことだ』と云はれて自分は目をまろくして一旦こしらへ上げた大根を再び見直すのであつた。

賣物に花を咲かせるための、其れが御方便であつたに相違ない。けれどもうちの大根を買つて吳れる見ず知らずの他人にもしか難儀がかゝつてはならないと語り合ひながら一生懸命に大根の毛をむしる父と娘の心！ 今の世の中に一番缺けてゐるものは此の心ではあるまいか？



婦人の解放とは

【所謂婦人の解放と其の結果】

解放と云ふことは婦人に付いて計りでなくあらゆる方面に此の頃は用ひられてゐます。そして、先づ、一般に婦人の解放と申ますと、婦人が經濟上の獨立を得て金力の壓迫から解放されることゝ、參政權を得て政治上の壓迫から解放されること、且つ、又、育兒家事の事を投げ捨てゝ繁雜な家庭の雜務から解放されると云ふことであります。で、バナード●ショウなどは『婦人が解放されるには、婦人は夫に對する義務、子供

に對する義務、子供に對する義務、社會に對する義務、法律に對する義務、其の他一切の義務を捨てることである。』と云つて居ります。

そして、こう云ふ派の女權擴張論者は、婦人が男子と全く同じやうに政治に產業に干與はるために家庭は煩しいものであるから、集合的育兒院のやうなものを設けて子供は其處へ入れ、共同家屋を造つて臺所を一つにして、そして、專門家を雇つて働かせれば婦人は育兒家事の束縛から解放されて充分に自分と云ふものを發揮させることが出來て、どの方面へ行つても充分男子と競爭することが出來ると云ふのです。ですから、所謂女權擴張者の婦人の解放と云ふのは一言で云へば子供を親の手から離すこととそれから今私共が持つてゐるやうな形式の家庭を排すことであります。

けれども、私は暫く亞米利加に住んで居りまして此の共同家屋と云ふものに經驗がありますが、それはなか〳〵不愉快なもので御座います。一つの家屋内に住んで居るものが皆同じ職業、同じ趣味を持つて居りますならば不都合は無いでせうが、實際に當

るとさうは參りませんからそれは隨分不便なもので、つまり、夜分などこちらではもう休まうと思つてゐてもお隣りの部屋ではまだごと〳〵してゐてこちらの睡眠時間を妨げたり、あちらではもう二三時間眠むらなければならないのにこちらでは起きなければならないから、自分のうちに居ながら朝起きてもお隣りに計り氣をかねて、コソ〳〵と成るたけ靜かにして居なければならず、又、こちらでは靜かに讀書でもしたいと思ふ時に近所の部屋で音樂が始まつたり、從つて、こちらでも樂器を出したいと思つてもツイ遠慮しなければならなかつたり、それはなか〳〵不愉快なもので御座います。非常に家がたてこんでゐる處に住むと思へばいいだろうと云つた人がありますが、併しどんなにお隣りが近くても家のむねが違つて居るのと、一つ屋根の下に居るのとは其處に大變な違ひがあります。又、食事でも、共同臺所で造つたものを誰もかれもが食べなければならないと云ふことは一見便利のやうで、實は大變不便であろうと思ひます。たとへ、つまらないものでもメイ〳〵の趣向に從つて料理するならば同じ金額でも

氣持ちのいい食事が出來るであらうと私は考へます。學生時代であるとか、男子ならば兵役に服して居る間だけであるとか、又は、旅行中であるとか云ふのでしたら、それは或る期間だけのことですから、別に不愉快とも無趣味とも思はずに居られませうがどうも、さう周圍に氣がねをしたり、あてがはれるものを食べてゐることが人の一生の生活の仕方だとすると、とても不滿足でたまらないであらうと思ひます。

けれども、それよりも猶個人にとつても社會にとつても恐しい大きな不幸は母親の手から子供を離すことであります。

【愛情の大きさが人物の大きさ】

一體、この世の中は人情と云ふことで保たれてあると私は信じます。人道とか道德とか申ますと大變難しいもののやうに思へますが、併し、それは、唯、人情と云ふ言葉で云ひつくせるものだと私は思つてゐます。其の證據には人道を重んじる德が高いと云はれる人の反對の極惡非道と云はれる人間を解剖して見ますならばそれは唯不人

情と云ふ言葉で云ひつくせます。つまり、そう云ふ人間は自分の一時の慾のために他人の難儀や迷惑や悲しみなどには頓着なく他人のものをとつたり破壞したり又は殺したりするのですから。

これに反して、大人物とか聖人とか云はれる人は人情の厚い人であるのです。自己又は自己の肉身のものと同じやうに他人を愛することの出來る人なのです。ですから私は人間の大きさは其の人々の持つてゐる愛情の大きさによるものだと思つてゐます。自分の事だけしか考へられない人間はそれだけの大きさの人間です。利己主義者だとか手前勝手だとか云はれる人がそれです。けれども、自分の命にかへても親なり夫なり妻なりを愛す事のできる人は其の人一人に親なり夫なり妻なりを加へたゞけ大きい人です。又自分の家族全體を自分のふところへ入れるやうにして、愛すことの出來る人は其の家族全體だけの大きさの人です。又、一町村一都市を愛する人は其の一町村一都市だけ、一國を愛す人は一國だけ、全世界を愛する人は全世界だけの大きい人

であるのです。釈迦や基督は全人類を愛しました。ですから、釈迦や基督は全人類を皆ひつくるめたゞけの大人物であるのです。

【愛情が主人で智力と技術は其の道具】

と云つても、一家を愛し、一町村一部市を愛し、一國を愛すと云つても、唯、愛すと云ふ計りで、頭脳と腕がそれを抱へきれないならばそれは何にもなりません。唯、口で計り、又は、心で計り、愛してゐても其の愛する實が擧がらなければ何にもなりません。有効に一家を愛し、一町村を愛し、一國を愛すにはそれだけの頭脳と腕が必要で御座います。ですから、智力も技術も無くてならないものであります。實際、人間は智力を養ひ、技術をみがゝなければなりません。けれども、其の智力や技術は愛情を有効に働かせる、いはゞ、單なる道具に過ぎません。

智力が發達すればする程、文化が進めば進む程、罪惡は巧妙になり大きくなると云ふ事は、其の智力、其の文明を主宰する愛情の力が小さいからであります。しもべで

あり、道具でなければならないものが主人顔して跋扈するからであります。最高な智力最新の技術を持てばそれで最上な人間になつたやうに誤まつて考へてゐる處から、往々それが惡のためにつまり、不人情なことのために用ひられるやうになるのです。西洋人の惡人は日本人の惡人よりもする事が規模も大きいし又非常に巧妙でありますが、それは日本人よりも優れた智力と技術を持つてゐるからです。愛情を無視して優れた智力と技術を持つてゐることは狂人が名刀を持つてゐるやうに危險なもので御座います。

實に此の世の中は愛情が豐富であることによつて平和な住み心地のよいものになりますし、愛情のとぼしいことによつて、冷たい恐しい人を見たら盜人と思へなどゝ云はなければならない誠に氣味の惡い處になつてしまいます。

【母の愛があらゆる善の源】

そんならば、誰でもが望むやうな住み心地のよい平和な温かな世の中にするために

人々の愛情をゆたかにするにはどうすればよいかと申ますと、それは母親の愛情を充分に働かせて、僞りのない純粋な母親の愛情を子供の心に植へ付けることによつて情愛の深い子供を造ることで御座います。そう云ふ子供を造ることによつて世の中には愛情が豊富になります。情味のゆたかな圓滿な子供は、自分の命にかへて保護しやう立派に育てやうと冀ふ母親でなければ造ることは出來ません。

子供の精神は、母親が子供の苦痛や喜びを自分の苦痛や喜びよりも鋭く感じて纖細な注意を拂ふことによつて圓滿に傷けられずに發達して行きます。赤子の肉體は一寸したはづみにも、息の根を止められてしまいますやうに、赤子の精神は一寸した打擊にも大きなキズを受けて、そして、其のキズは其の子が大きくなるに從つて矢張りだん／＼大きくなつて行きます。

本當に赤子のもろい弱い傷き易い精神と肉體は、吸めども／＼つきぬ生きた愛をもつて母親が文字通りに自分の命よりも大切にするので圓滿に健全に成長して行くこと

が出來ます。そして、圓滿な健全な國民となります。こう云ふ國民が圓滿な健全な社會を造ります。ですから、この母の愛があらゆる善の源、人情の苗床、愛國心の根源社會秩序を整へる本もとなので御座います。私共の肉體に食物を供給しなければ私共の肉體はほろびます。從つて、社會もほろびます。それと同じやうに、精神上の食物である愛が、不足して居れば人間の精神の力、則ち、德義心はます〳〵貧弱になり世の中はます〳〵殺風景になつて行きます。釋迦や基督が人類の不幸を憐れみ、人類の幸福の增進を思ふた心はあらゆる善の源、人情の苗床、愛國心の根源である母心の大きなものであつたのですが、私共婦人はたとへ今日の處では無敎育であるにせよ、又、腕力は男子に數等劣つて居るにせよ、併し、男子よりは優れた母心を持つて居ります。たとへ、釋迦や基督の母心の何萬分の一にも足りない程小さなものであるにせよ、其の同じ種類、同じ系統のものを持つて居ります。

【眞の意味の婦人の解放】

其處で、本當の意味の婦人の解放とは婦人の其の母心を壓迫することなく、傷けることたく、婦人が安心して其の母心を充分働かせ得るやうな狀態を婦人のために造ることであります。決して〱婦人が親の云ふことを聞かなかつたり、夫をふみつけにしたり、自分の子供をほつたらがして、政治運動に熱狂したりすることではありません。婦人が持つて生れた愛情の力を發揮して思ふ存分其の愛情を働かせることであります。私は、婦人は愛情の力を特別に持つて生れたと敢へて申ます。なぜなら、女の子は自分がまだをんぶしたり抱かれたりしてゐる時分から人形なら勿論、手に持たされた何でもをすぐに小さな赤子になぞらへて寐かせつけたり、あやしたり養つたりする眞似を致します。けれどこれは男の子の決してしないことであります。

鳥は生れながらに巢を造ることを知つてゐるやうに、櫻は三月になれば必ず忘れずに蕾を一杯ふくらませるやうに、女性は生れながらに愛す心、育てる心を持つて居るのだと私は思つて思ります。そして、女の子の其の動作は其の愛す育てると云ふ本能

の發露に外ならないのだと私は思つて居ります。女性にこの本能がありますので、つまり、自分の命にかへても子供を保護しやう、自分よりも優れた人間に子供をしやうとする希望がありますので、もとは猿であつたと云はれる人間をこれ迄進歩させ發達させて參りました。今迄婦人は周圍から男子から壓迫しつくされてゐてもここ迄人類を維持し進歩させて來たのでありますから、女性の其の愛したい育てたいと云ふ本能の力をもつと〳〵深く、強く、大きくしたならば、確かにこの社會の狀態は一變する則ち、新社會が造り出せると云ふのが私の信念なので御座います。

ですから、私の意味する婦人の解放と云ふことは婦人の其の愛情を貧弱にしたり、或ひは枯らしたりするやうな事情を婦人の周圍から取り除くことであります。婦人の愛情の力を貧弱にするものはそれが何であろうと惡であり、愛情を豐富にするものはそれが何であろうと皆善であると私は信じて居ります。

【所謂女權の擴張は母心を輕視し愛情を貧弱にする】

處で、所謂女權擴張論者は人類にとつて、社會にとつて、國家にとつて、最大重要素である其の母心の作用を全然無視して居ります。自己の擴充と云ふ名の下に家庭を變な住心地の惡いものとなし、子供を冷かな他人の手に渡して、母親の愛情の働く餘地をなからしめて、當然、母親のふところに温かく養育されねばならぬ子供の權利を全然蹂躙しやうと致します。自己の權利を主張するのあまり他のものの權利を侵害する、つまり、子供の幸福、人類の幸福、社會の幸福を全然無視する所謂女權擴張論者は人道の敵でなくて何でありませう。

他人の手に育てられて母親の愛を知らない子供は到底圓滿には育ちません。圓滿に育ちませんから有益な人間になれません。母親の愛に浴すことの出來なかつた子供は、ひねくれ者か、精神に中心のないフラ〱した人間か、さもなければ惡人になると云ふのが、世界の學者の定說であります。婦人は決して〱子供を苦しめてもよい、人種を墮落させてもよい、國家を困らせてもよいと云ふ權利を持つことは出來ません。

又、持つてはなりません。私は何處迄もこの親を無視し、夫をふみつけにし、子供を、ほつたらがし、社會に對する義務を抗むと云ふ女權擴張論に反對するもので御座います。

【從來の所謂家庭婦人】

そんならば、女權擴張論の反對の、女は生れながらにして男とは違つてゐる。婦人の使命は母となり家庭を整理することである。從つて、婦人が家庭の外に出て政治に職業に男子と競爭することは婦人を婦人として價値なからしめ、從つて種族を害するものであると云ふ方はどうかと申ますと。これは、其の言葉の上に於ては差し支へ御座いませんが、併し、其の內容、則ち、今日迄の我が國の習慣でありましたやうな、婦人の世界は家庭であると云ふこは、女性と云ふことを全く忘れ無條件に男性と同じやうな生活をしやうとする女權擴張論と同じやうな弊害が伴ふものであります。

今時、そんなことを仰有る方は無いと思ひますが、私がまだ子供の時分には夫が妻

に向つて、『お前などは便所へ行く道とか、かまど、のそばへ行く道さへ分ればいいのだ。俺のすることに餘計な口を出すな。』などと云つてゐるのをよく聞いたことがあります。又、餘裕のある人になると『女は床の間の飾りものだ』などと云つてゐました。そして、又、女の方でも其の床の間の飾り物になることを絶大の光榮として居ました。女がそう云ふやうな人として全く價値のない生活に甘んじて居たものですから極端な女權擴張論が起つたのであります。前に引きましたバーナド●ジョウのやうな言葉が出て來たのであります。周圍の一切を無視するやうになつたのです。

けれども、人が男子でも婦人でも其の身にかかる義務を捨てて權利計りを獲得しやうとすることの矛盾であり不正であり、又、不可能であることは今更説明の限りでは御座いません。

けれども、男子は女子に對して其の矛盾其の不正を敢へて實行して參りました。女權擴張論はいはゞそれに對する復讐のやうなものであります。そして、その女權擴張

論者が見當違ひの方へ女性の力を伸して行かうとするに反して、此の便所へ行く道と、かまどのそばへ行く道とだけしか見させられない婦人、及び、床の間の飾り物である婦人は人として女として持つて生れた力を少しも伸すことが出來ませんでした。愛したくても愛さずに居ることが婦德であるやうに考へるやうになりました。彼女等はそれ等の周圍の壓迫のためにいはゞ、育ち損つた植物のやうになつてしまいました。成程彼女等は花も持ちますし、實も結びますが、併し、それは、ことごとく貧弱な花と實でありまして未來の大國民を生み養育するに到底適したものではありません。有産階級の婦人は餘裕があつても自由がないために日かげに育つた草花みたいに意氣地のないものになつてしまいましたし、勞働階級の婦人は婦人としてほうふに蓄へて置かなければならない、優しい温い愛情を貧乏と烈しい勞働とのために汗と一所にしぼり出してしまいまして、温味もうま味もないしぼりかすのやうな女になつてしまいました。この兩方ともが、到底、今後の世界的競爭に堪へ得るやうな健全な雄大な國民を

養成し得るものでは御座いません。ですから、婦人の勢力を誤まつた方向に伸して行かうとするのは人類の勢力を無駄にする一種の罪悪であると同じやうに、このある勢力を壓迫して貧弱にするのも矢張り勢力經濟の上から非常な損害、否、捨て置き難き大きな罪悪で御座います。

【現代の婦人は三種の木にたとへらる】

曾て、エレン●ケイは、無條件な女權論を信じて男性化して行く婦人を電信柱にたとへ、家庭婦人を生きた木にたとへました。電信柱も確かに一つの用を爲して居るには相違ないが、併し、それは花も實もある生きた木とは其の價値に於ておもむきに於て比較にならない程の差があると云ふのです。電信柱はいらないと云ふのではなく、電信柱にしかなれないものを電信柱にして花も實も持ち得るものはもつた方がよいと云ふのです。けれども、我が國の從來の家庭婦人、便所へ行く道とかまどのそばへ行く道とだけしか見へない婦人、及び、床の間の飾り物である婦人は小さな植木鉢へ押

し込められた育ち害つた木であります。前にも云つた通り小さくとも生きて居るから花も持ちますし、實も結びますが、それは、小さくて貧弱で、男子の手なぐさみには適してゐても、到底、有益になり得る人物を養い、國を富ます資格はありません。

これに反して、廣い地面から自由自在に養分を吸收する力を持つてスク〳〵と持つて生れた力を伸して行く木は健全な花を充分につけて、ほうふに實を結び、人類を養い、國を富まして行くことが出來ます。そして、私の意味する婦人の解放と云ふことは婦人が電信柱にされるのでもなく、植木鉢に入れられるのでもなく、大自然から自由自在に養分を吸收し得る、そして、持つて生れた力を充分にグン〳〵伸し得る位置に置かれることで御座います。大自然から自由自在に養分を吸收すると云ふことは教育の自由は勿論、社會に直接接近するの自由で御座います。今迄は、婦人は父親を通し、或ひは夫を通して間接に社會と交渉をして居りました。けれども、次の時代の國民を男子をも女子をも養育して行かなければならない任務を負ふ母が社會と直接の交渉な

く、社會の事柄がまつくらであつては到底子供を完全に指導し、新社會を組織し得る有益な國民を造ることは出來ません。一國に、又は、世界に頭角を現した大人物は大抵賢い母を持つてゐたと云ふ事實は既でに〳〵どなたでも御存じです。

それから、もう一つの重要なる自由は婦人の戀愛の自由で御座います。併し、この戀愛の自由と云ふことはいつも〳〵放逸な戀愛と誤まられがちのものですが、自由と放逸との間には判然とした區別が御座います。戀愛に付いて計りでなく、此の自由と云ふ言葉はあらゆる方面に於て誤まり用ひられてありますが、其處へ話を持つて行きますと、話が橫道へそれますし、又、長くなりすぎますから、それは、又の機會を待つことに致します。婦人が本當に心そこから敬愛する事の出來る男子を夫に持つて、本當に愛の上に家庭を造りますならば健全な健固な家庭が造られます。そして、そう云ふ家庭を基礎にした社會は矢張り健全であり、健固であり子供に非常に有益な感化を與へます。社會問題、經濟問題、人口問題、結婚問題、勞働問題、及ひ、公娼私娼

の問題は大郎分此の戀愛問題を解決することによつて解決し得るもので御座います。

【男子の政權濫用】

婦人參政權に關しましても、女權擴張論者は國民の半數である婦人が國家に對して發言權を持たないのは不正であると申ます。すると、婦人を植木鉢へ入れて置いていつ迄も自分のおもちやにしてゐやうとする男子は國家に對する發言權は自分達男が代表してゐるからいゝではないかと申ます。本當に男子が婦人の權利婦人の利益を尊重して、婦人の婦人としての能力の發達を妨げないやうに、そして、父親よりも母親に一層密接な關係を持てゐる子供の利益になるやうに政治をとるならば婦人のためにも却つてそれが好都合であるでせう。けれども、男子は婦人が無智であるために、國民全體の利益其のうちでも殊に未來の國民の幸福を增進しなければならない國家の仕事を理解もしなければ發言權も持つてゐないのを幸ひにして、女子供と一口に云ひのけてしまつて、全然、何にもかもを男子本位に規定して參りました。そして、今後もそ

れを押し通さうとして居ります。

【婦人參政權】

一體、婦人參政權に關する賛否の議論を明細にお話し致しますことはあまり長くなり過ぎますし、それに、大抵の方はもう旣でに御存じでゐらつしやいますが、先づ、これに對する反對論をつゞめて申ますならば、その一つは婦人の能力を信じないのともう一つは、民主々義を排斥するのと、それから、もう一つは變化を好まない人の天性から來て居ります。それに對して、亞米利加の或る婦人參政權論者は云つて居ります。

『現代の生活はます〳〵婦人をして社會と密接な關係を造つて行く。朝起るから寢る迄の婦人の仕事は皆政府と云ふ機關と直接な關係をもつてゐる。たとへばギヤスをひねり、電氣をつければ、もう、公衆の實益に關する規定と關係がつく。牛乳や牛肉を使へば、すぐ、衞生に關する法律との關係がつき、水を使へば水道局との關係が出

來、商店へ買物に行けば關稅又は收入稅と關係があり、兒童の就學は勿論、誰か傳染病にかかれば衛生法の規定に從はなければならないし、其の他滯掃除から芥箱に至る迄一々政府と密接な關係がある。であるから婦人が參政權を持つ理由はいろ／＼あるけれども、其のうちでも殊に家庭婦人は選擧權を得て、それ等の諸問題に付いて改善を計らなければならない。』

これは婦人參政權論のうちでも最も進んだそして、穩健なものでありまして、私も、それが正當であると思つて居ました。つまり、男子が頑迷で我がままでいつ迄も一切を男子本位に規定し、そして、婦人を男子に從ぞくさせて置かうと致しますならば、これからの婦人はとてもそう云ふ屈辱な位置に滿足して居られるものではありませんし、又、それは、未來の國民のために徹頭徹尾不利益でありますから、今後の婦人は男子を押し退けて直接國家に交涉を持たなければならないと考へて居ました。

【理想的代議政治】

けれども、もう一歩進んで考へて見まして、まだ〳〵それでは不完全であることが分りました。一體、政治とは政府のことです。政府とは法律を造ると云ふことです。其處で代議士は法律を造る人であつて、選擧人は自分達の慾しいと思ふ法律を造つて貰ふために代議士を選擧するのです。そうして、少なくともそのつもりで選擧して居ると思つて居ます。處が、實はそう想像して居るだけで、そして、其の想像は間違つて居ります。そして、又、事實そうならざるを得ないのです。なぜと申ますに一人の選擧人の一票の價値は一人の代議士を選むに付いて何千分の一か、何萬分の一か、或ひは又、何十萬分の一に過ぎません。たとへば、一萬票の票數で一人の代議士が選まれたと致しますと、其の代議士が、確かに選擧人の意志を代表するとしても、其の代議士は一人の選擧人の意志を一萬分の一しか代表してゐないと云ふことになります。

こう考へて參りますと選擧權をもつて社會問題を解決しやうとすることは隨分迂遠であるやうに思はれます。其處で私は考へないわけには行かなくなりました。社會問

題の解決は參政權ではなく、眞面目な健全な實行可能な輿論であることを。國會議事堂で法律が造られると考へるのは間違つて居ります。法律案の提出は政府がした處が又は議員がした處が、いづれにしろ、其の法律案の內容は社會が造りつゝあるのです。國民が造りつゝあつた輿論を國會議事堂に持ち出して、そして、國會議事堂は其の贊否の決をとるに過ぎないのです。國會議事堂は決して法律を造る處ではない。唯、國民がほゞ造つたものに對して贊否の決をとるに過ぎないのでありますから、其の內容は國民が、つまり、輿論が造つたのでありますから、我々は、殊に、私共婦人は參政權を持つのもよろしう御座いますが、それよりも先きに、先づ、輿論を健全なものにする工夫をすることが大切です。そして、それは實行可能な輿論でなければなりません。實行可能な輿論と申ますのは社會の成立しだ條件から始めて、そして、其の進歩し、又は、退歩する所以を明らかにし、社會の基礎を成してゐる家庭問題を考察し、家庭の進歩的事實を基礎とした議論を盛んにすることで御座います。

殊に、どなたでも一度議會を傍聽なさつた方は御存じのことですが、あの不眞面目不誠實、全く人を馬鹿にしたやうな態度で、我々國民に直接利害のある諸問題が取扱はれると云ふことは何としても我慢の出來ないことであります。

が、あの不謹愼な態度を矯正致しますには矢張り輿論の力で御座います。で、私共にとつては如何にして眞面目な健全な輿論を造るかと云ふことが目下の最も大切な仕事で御座います、この頃は、世界至る處、ややもすれば暴力に訴へて事を處決しやうとする風が流行致しますが、併し私はそれを取りません。今日の人智の程度に於ては革命ですらも暴力は用ひずに法律によつて、則ち、健全な輿論を法律にすることによつて革命が成し遂げられる程度に迄進んで來て居ると私は信じます。

スイッツランドに於ては、國會に上程される議題は先つ國民間に於て充分討議されるのであります。國民全體に廣くそして、充分愼重に討議された後に始めて國會に於て贊否の決をとるやうになつて居ります。

政治が進歩致しますならば、つまり、政治學が進んで參りますならば、猶、云ひかへますれば、社會を改善する學問が建設されますならば、政治は今御話し致しましたスイッツランドのやうにならなければなりますまい。社會を改善する學問は、現に今社會學の名によつて建設されつつありますが、實に、醫學が出來て醫術が改善され、經濟學が出來て經濟が改善されますやうに社會學が出來て社會はいよ〳〵改善の緒につくのであります。則ち、その道の專門家が社會現象を研究し、救濟すべき點、促進すべき點を摘發して其れを議題となし、そして、國民にそれを討議させ、それから、國會議事堂に於て其の賛否の決をとる、これが則ち、最も進步した代議政治であると私は信じます。

【政權よりも輿論が大切】

其處で、私共婦人は法律の題材となるべき最も根本問題なる家庭の事實と家庭の要求とが、政治上最も權威ある、國民にとつて最も重大なるものであることを輿論とす

るのが目下の責務で御座います。政權をもつた處がその政權を有效に運用する準備がなければ、唯、時間と勢力が無駄になる計り、婦人の時間と勢力が無駄になることはそれだけ家庭と子供が等閑になることであります。そして、その結果は好ましくないこと計りが多くなると云ふことは明らかであります。

【男子側の理解を望む】

今日迄の政府は男子を通して各家庭と婦人と子供を保護して參りましたが、その男子が各家庭の便宜及び婦人と子供の利益を侵害するやうな男子本位の法律計り造つて居つたものですから、婦人はどうしても政府の力を直接に自分等の後楯としなければならないと云ふやうなことを考へて參りましたと云ふことは前にも話しました。けれども、男子が從來と同じやうな態度で婦人の其の意氣込みを馬鹿にして、『女がどんなにやつきとなつても現在、政權も財力も皆男の手に歸して居るからどうすることも出來はしまい』などとせせら笑つてなど御ゐでになると其の結果は誠に好ましくないも

のとなるであろうと思ひます。どの方面に向つても私は暴力を全然排斥するものでありますが、世間はなか〳〵そうではありません。英國の武斷派と云はれて居ましたパンクハースト一派の婦人參政權論者のあの女にあるまじき世界を驚かせた亂暴な破壞的な行動は、唯々、男子の其のせゝら笑ひに報ひたものでありました。

私共日本婦人は皆樣も御承知の通り、世界の婦人に遲れて居ること遙かでありますが、併し、私共は前車の覆へるを見て後車の戒めとしたいと思ひます。そして、世界の婦人に一歩進んだ方法をとつて行きたいと思ひます。そうするには婦人は婦人の天職を自覺し、男子は婦人の其の天職の意義と價値を認めて徒らに目覺めた婦人を熱狂させ、そして、破壞的な亂暴な行動を婦人にとらせるやうな不聰明な態度をとらずにそして、歐米の一般が演じましたやうな權利の奪合ひ見たやうなことをして男女お互ひの勢力を無駄にするやうなことをせずに男女共力して、今後世界的に多事である時に際して國力の充實を期したいと思ひます。

職人でも農夫でも官吏でも束縛から解放されるといふことは、其の職を捨てるといふことではなくその職に深い意義を見出すことであります。深い意義を見出すと云ふことはその職業を社會的にすることであります。この意味に於て婦人の解放とは家庭を破壞するのではなく、婦人が家庭の深い意義を發見することであります。家庭の深い意義が了解出來れば婦人自身が新しくなり、家庭が新しくなり、そして、新社會が實現し、國力は益々充實して行くのであります。（上田市に於ける信濃日日新聞主催講演）

草間判二樣。父母の推許であつても、又は、他人の紹介であつても、それが導火線さなつてお互ひの愛が生れて、そして、結婚となれば、それは立派な戀愛による夫婦であります。

或る機會に男女が意氣投合して情意を交しても、其れが結婚を目的としないならば、勿論、私は其れを放縱な、無責任な、不正な戀愛と申ます。

女は愛を二三にすることは出來ないが男は愛の　が生命でないから云々と鳩山さんが云はれたと仰有いますが、愛を二三にすることの出來る男は、まだ、獸性に支配されてゐる、現代文明の洗禮を受けてゐない、戀愛の意義を知らない人間であります。

勇氣――道德思想の價値

現代は、殊に今日に於ては、唯物論が成り立つ成り立たないに拘らず國民の大部分が皆唯物論に囚はれてゐる。けれども、これは唯物論の罪ではない。ものは單にものではない、ものの半面は精神であると云ふことを知らない、つまり無學の結果である。そして、其の無學が道德思想の價値を認めることが出來ないからである。

たとへば、人は勇氣を尊重する。そして、この勇氣を尊重するものは殊に唯物論者に多い。けれども、一體、勇氣とは何であろうか？　人は皆各々仕事を持つてゐる。子供ですらも仕事がある。勉强するのも一ッの仕事であるから。處で、其の仕事を唯單に仕事と見ることの代りに其れに一層深き意味を見出さなければならない。其の深い意味を見出すといふことは其の仕事を利他化すること、則ち社會のためにすることである。そして、

そうしやうと思ふと往々自分のうちにある障害、自分のそとにある障害に出つかはす。其處で、其の障害と戰ふことが勇氣である。そして、其れがものの道德的價値である。

私はこのものゝ道德的價値の說明として、ブートローの道德思想の價値を次に譯出する。

自然は二ッの反對な過程を現す。則ち、創造の過程と分解の過程と。そして、この二ッのうちの一ッの方の過程、則ち、分解の過程は可なり滿足に說明出來るがもう一ッの方、則ち、創造の過程はそうは行かない。クロシアス——カアノーの法則によれば如何なる現象も皆一ッ方向に向つて行く。則ち、分解するといふことが測定出來る。併しながら、創造に對する說明は常に不完全である。何となれば、創造に對する說明は常に散布してゐるエネルギーを認めなければならない。其の結果全體としての宇宙の組織はいつ迄も說明されない。時によれば全然了解出來ない。

もし、科學を一般の分解の說明に制限してしまうならば、機械學的の概念は充分なものであろう。則ち、生物學上、化學上、及び、物理學上のエネルギーを單なる一樣な熱として說明してしまへば其れで充分であらう。けれども、其の機械學的な概念は到底、ライフとか、或ひは、意識とかいふものを說明しない。其のライフ、又は、意識の存在のかたちが特種

の性質を現してゐるだけ、それだけ說明が難しい。

けれども、ライフ或ひは感情に關しては、純粹な機械學的な概念を拾てて、數量的であるばかりでなく猶又幾分か性質的な原則を適用することによつて、我々は生きたそして、有識なものを如何に硏究すべきかを學んだ。而して、相應な結果を得た。そして、其の原則は道德上の原則に全然關係のないものでないことを此處に斷つて置かなければならない。が、これ等の原則は實は終局、和合、行爲、統一の中心、個性、社會と云ふかたちで現れてゐるから、これを原則として了解するのは隨分困難であるやうに思へる。

且つ又、これを全く論理的の原則にしてしまうことは、則ち、純粹に數量的にしてしまつては、數學者ですらも滿足出來るものでないであらう。數學者ですらも亦純粹に分解的な過程と、それから、創造の過程との間に矢張り區別を立てゝゐる。そして獨斷的、或ひは、敎育學的の實證は純然たる論理上の原則の上に成し遂げられることを彼等は進んで承諾するけれども、併し、彼等は此の原則の發明が純然たる機械學の働きの結果であるべきことを許さない。數學者は、もし、彼等が公理や、一層大なる正確な定義や、一般性や又は效果に迄到達しやうとするならば、彼等は絕へず觀察し又、嚴密に試驗せねばならない理想的實在と彼等自身が特に關係あるものゝやうに感じてゐ

る。『見へない調和が見ゆる調和に優つてゐる。』といふヘラクリタスの格言をモットーとして數學者は既知の原則を發見しやうとするのみならず、猶又、原則それ自身を延長し發達させやうとする。

かくの如くにして感情、則ち、生きたものに關する特別な科學のみならず、一般科學、及び運動、力、空間、及び數の學問ですらも一般に想像されてゐるよりも一層より多く道德上の觀念に密着な關係を持つてゐる。つまり、それ等の科學が、皆、道德上の觀念の一味のものであるのである。推測を用いて既智のものを說明し、又、或る實際の發見をしやうとする科學者は、科學が彼に與へる論理上の概念のみならず、數量的な、或ひはむしろ性質的な觀念を用ひてゐることは確かである。委しく云へば科學者ですらも幾何學的な正確な意味ではなく、生きた、そして、深い實在の意義を發見しやうとしてゐるのである。

思想と力は我々の精選された概念のかたちに於ては存在しない。思想と力は實は一ツのもの丶うちに集められてあるのである。併し、この本質的の一致は內容のない數學的の一致ではない。その一つものゝうちには多くの性質が含まれてゐるのである。生物が現してゐる性質のかたちを見るならば我々は直ぐに其の事實を發見することが出來る。そして、かやうな生きてゐる統一物を例をとつて云ふならば基督敎の所謂三位一體がそれであ

る。何となれば、三位一體の一ッ〳〵が其れ自身一ッの統一であるから。

最初に於て一ッのものであつた力と思想も人間の智慧(インテリヂエンス)は其處に明瞭なる區別を見出す。そして、遂ひには全く無關係なものとしてしまつて、其の結果力と思想が如何にしてお互ひを感化し合ふかゞ理解できないやうになる。けれども、彼等が元來一ッであつたといふ事實が永久に彼等を關係のうちに置く。そして、我々の理解できない仕方で力と思想は相互ひに反動し合つてゐるのである。

勿論、力と思想のそれ〴〵に與へられてある法則は別々に考へた時にはそれは抽象的で不充分である。つまり。其の法則に何者もが干渉さへしなかつたならば凡てのものが其の法則に從つて起るといふことを意味する。けれども、實際には常に人の氣の付かない原因が干渉するから、其の結果我々の抽象的な法則は事實に合はない。

人間の思想は實際は力に比較されるものである。從つて腕力は意志に從ふものであると云はれてゐる。そして、凡てのものが進んで行く狀態を見ると、我々の抽象的な概念が定義を下すやうな力と思想の間に關係があることを表示してゐる。一見した時には思想と音(オン)程無關係なものは無いやうに思へる。けれども、思想と音は言語を通してぴつたり調和する。思想は音の美と法則を利用する。ホーマーの天才から立派な思想が現れ

た。そして、其の思想は論理的に精密な、明瞭な、そして、理性の輝しさをもつて表現された。それは恰も奇蹟のやうにすら〳〵と純粹に品のよい調和した詩となつて現れた。これは音の法則と思想の法則との間に前もつて調和が設定されてあつた結果であらうか？　さうではないのである。多くの思想家は彼等の思想に對して何等の調和したかたちを見出すことは出來ない。多くの文章家は彼等の立派な文體を價値つけるやうな仕方で考へることに成巧したことはない。

併しながら、思想と其の思想を現すサインは其のどん底に於ては一ッものなのである。ヨハネの所謂『其の始めに言葉あり。』で、其の言葉が道理なのである。ホーマーの文體が立派であることは、言葉と思想、則ち音と思想とは同じものだと云ふことを證明してゐるのである。

ホーマーが詩の世界に於て成し遂げたものに等しきものを此の世界に實現することが我々に與へられた天命である。正義と腕力とは全く別なものに思へるけれども、併し、この二者は調和するものである。理想と實在とは神に於ては一ッである。正義と腕力の調和を妨げるものは、ものゝ性質には無いのである。それを妨げるものは却つて人間のうちにあるのである。たとへば、人間の意志の薄弱や、思想と實在との間には懸隔が存在してゐると云ふうちに其の妨げがあるのである。

故に、要は信仰に於ては强く、思想に於ては深く、科學に於ては正確であらねばならぬ。而して我々は物質上の文明と精神上の文明とを維持し增進し、其の結果、道德思想の帝國を建設することが出來る。かくの如くにして我々は人間としての仕事を正しく果すことが出來る。其の仕事とはホーマーが『人間が眞に人間である時に如何に人間は愛すべきものよ』と云つた其處に我々が達するのである。

人間が内部にもつてゐる道理は敎育し得る。それは敎化し得るのである。それは科學の發達と人生の經驗と思索することによつて、又、ライフ、並びに、科學の一層深き意義を探し出すことによつてなし遂げられるのである。そして、それは現象を通して實在を摑むべく敎へられる眞理それ自身の生命と活動である。それが、則ち、哲學の生命と進歩とを造るのである。

二重性を持つものとして人間が解決せねばならぬ問題は、精神的になろうとすると同時に肉體の生活を保存せねばならぬこと、及び、肉體の生活の滿足を得ると同時に何處迄も理想に忠實であらねばならぬことである。

そして、この二ツの要求に答ふる最も確かな方法は眞理に對して眞實な證據人なる道理に忠義なることである。そしてそれを徹底させるには勇氣が必要であるそしてその勇氣が道德思想の價値である



繼母に就いて

江渡幸三郎様から『この頃、不圖、所謂繼母は本當の意味で、母なりや否やといふことが頭に浮びました。いつか「婦人と新社會」でこの問題について御考へを聞せて下さい。それと同時に、もし、母たるべきものであつたら、所謂子の立場は如何といふことも徹底的に論じて見て下さいませんでせうか。――父の妻とはなり得ませうが子の母とになり得ないやうに考へられて居るのであります。』と云ふ御手紙を頂きました。徹底的に論じられるかどうか分りませんが、とにかく一應述べて見ます。

所謂繼母は本當の意味の母親ではないと私は思つて居ります。子は自分の命よりも大切であり、自分の幸福よりも子の幸福を希ふのが母の母たる所以だと思つて居りますから、先つ百人のうちの九十九人迄子供と相反目してゐる繼母は所詮母親ではないと思ふのです。私は嘗て『普通にして居れば善良な婦人であるものを繼母になると鬼のやうになるから、子供のある人との結婚は避けたがよい』と或る婦人に云つたことさへあります。もし、繼母と子供との間が親密になり得るならば、母親に捨てられた子供、妻に死なれ

た夫のためには、この死なれると云ふ不可抗力の人生に於ける最大不幸を緩和することが出來て、それ等の不幸な人々のためには最大福音であるのですが、併し、事實はいつも其の私共の希望とは正反對な結果を生みます。

これは、人類の生命線である母と子との關係は人工によつてどうにでもなるやうな安價なものでないことの證據ではないかと私は考へます。そして、この繼母を實母のやうに取り扱はうとする習慣は母子關係の重要さを見ることが出來なかつた、かたちを實物だと思ひ込む幼稚な考への遺物ではないかと考へます。

其れはさて置き、一體、人間には情愛と云ふものがあつて、それは一所に住んであることによつて、その一所に住んでゐるものに必ず移つて行きますが、たとへ一時雇つた女中でも、かりの同居人でも、家に飼つて置く動物でも、草木でも、又は道具のやうなものに迄も、或ひは又、夫にも妻にもまるで他人である子を育てて其處に實の母子のやうな愛情が生れることがあるのに、どうして繼母となると其の反對の現象が現れて來るものであろうかと實は私も考へたことがあります。

人と人との交際は、殊に同棲は今も申ます通り、長くなればなる程、日一日と親密になつて行きますのに、繼母と子供の間のみは其れと正反對に益々反目の度を高くして行く其の原因を、よく人は、生みの母に對する溫いなつかしい記憶の

結果、子供は繼母を白目で見るから、繼母の方では小憎くらしい子と思ふやうになり、果てはお互ひの感情がだん〳〵離れて行くのだと申ます。これも確かに一理ありますが、其の外にもう一つ相反目するやうになる重大なる要素は、生みの父と繼母との子供に對する愛情の差であると私は考へます。

子供の或る一つの行爲に對しても、父親は其れが子供としての當然の行爲と思ひ、多少それが自分に迷惑になつても、其の迷惑なことが却つて可愛いらしさの度を増すに反し、それ程の愛情を子供に持たない繼母の神經にはそれがうるさくさわります。厄介だと思ひます。ツイ、父親の目からは無理だと思ふ小言が繼母の口から出ます。父親はいやな顔をします。其のいやな顔を見て繼母の心は一層いらだちします。そして、子供に一層つらく當ります。子供はます〳〵繼母を嫌ひます。嫌はれゝば一層憎くらしくなります。そして、其の憎しみのうちには、自分の夫と憎らしい子供との間の親密さに對する妬み、夫と子が結托して自分に對抗するといふやうな疑惑が起つて來るといふやうな順序で繼母と子供との間は益々險惡になつて行くのであろうと私は考へます。

もし、子のある人との結婚が子供中心であつたならば、つまり、自分の結婚生活が目的でなく、母を要する子供を育てると云ふことが目的で結婚するならば趣

はまるで違つたものであろうと思ひます。婦人が女性としての天職を自覺し、そう云ふ態度で結婚するならば、父親の方でも子供が生みの母親に抱かれてゐた時と同じやうに安心して子供を任せぎりにして置くでせうし、任されて見れば責任観も出て來るし、責任を持つて世話すれば、子供だとてもと〳〵すがる人が欲しいのですからなついて來ますし萬事が圓滿に行くであろうと思ひますが、今迄の處では大抵の場合ひ婦人は自身の結婚生活が目的で、子供は、まア、早く云へば邪魔なのですから、うまく行くわけがありません。そして、針程の小さいことから、子供と繼母と父との感情がたかぶつて來て、三角の葛藤が始まるのです。そして、果ては、父も子供も繼母も悲歎の淵に沈むのです。

　曾て、ホーソンは『人に親切をすることによつて母らしい氣持ちになるものだ』と云つたことがありますが、其れは至言であると私は思つてゐます。繼母であつても、本當に女性としての自覺があり、優しい親切な婦人であるならば、繼子に對する親切な行爲によつて母らしい氣持ちになり、母らしい故に子供がなづき、なづくから可愛くなるといふわけで本當に都合がよいと思ひます。

　一體、生むと云ふことよりも育てると云ふことが本當に母子らしい關係をつくるものです。其の證據には生みの子でも里子にやつてあつたのは可愛いくないに

反して、生まなくとも所謂襁褓の上から育てることによつて其處に切つても切れない愛情が創造されるといふのが世間普通であります。

所謂襁褓の上から手がけれぱ、生まなくとも、それが全然自分の子になります。けれども、生れてから一年後に自分の子にしても其の子はもう一年だけ他人です、生れた時から育てた子程可愛くありません。もし、又、三つになる子を自分の子にしても、其の子はもう三年だけ他人の子です。其の子の苦痛を自分の苦痛と感じる程の密接さが子と親の間にありません。ですから、私は子供を貰いたいと云ふ人には『貰ふのなら、生れた計りの子供をお貰ひなさい。乳やおむつが面倒だなどゝ云ふのでは親になる資格はない。又、なりたくてもなれはしない。』といつも申ます。

繼子であつても子供がまだ生れた計りで全く無心でありますならば其處に感情の衝突などがあるわけもなく、しつくりと母子の實があがつて行くかも知れませんけれども、大抵の場合繼母が手がける先妻の子はいゝかげん大きくなつてゐるものですから唯さへ其處に親子の實がないのに前述のやうに繼母と父と子供との間にいろ〳〵な細かな感情の衝突があるのですから、繼母と子供の間がうまく行くわけがありません。で、遺憾ながら繼母は本當の意味の母でないと云ふ斷定を下さなければなりません。父の妻にはな

り得ても、子の母には全然なり得ないものであります。

で、こう云ふ場合の子の立場は如何と云ふことに付いては、私は全然他人との關係で宜しいやうに考へます。母子の實がまるで無いものを、唯、父の妻であるから實母同樣に取り扱はなければならないと云ふ定めは無理であり、無理であるから不幸が起るのです。他人であつても自分に親切であつた人は忘れられないやうに繼母が世間普通の繼母のやうではなく、自分に親切で母らしいもので、自分にも母のやうに思へるなら、一生涯母としてかしづき、もし、又、他人同樣内部的に無關係であるならば、母として取り扱ふ必要はないと思ひます。

繼母の方にしても自分の女性としての天職を自覺し、育兒が婦人の貴き仕事であると信じ、たとへ先妻の子であつても生みの子のやうに愛することが出來、自分の一切の利益を犧牲にしても子の幸福を計ることが出來るならば、老後子供に賴らうとしても其れは當然でありますが、自分には少しも子らしい氣持ちもせず、從つて、世話したくもないのに、唯、名義だけが母であるために母としての扱ひを受けやうと期待するのは大きな不心得であると私は思ひます。どうしても母となりきることが出來ないならば繼母自身も父も子も其のつもりで無理に母子の關係をつけずに、ありのまゝで、唯、家族の一員として相對して居ればよろしいと

思ひます。無理な關係をつけやうとせずありのまゝにして居るならば少なくとも他人との間に出來る位ひな情愛は生れて來るかも知れないと思ひます。

併し、それも實際に當ると無理な處が出て來るに相違ないのですから、矢張り最高な理想は父親が再婚しないことであります。

けれども、子供の幸福を思ふて再婚しない人はめつたにありません。大抵は子供の幸不幸に付いては無考へ、後妻になる人が子供の第二の母として適當であるか、不適當であるかも無頓着で再婚してしまいます。そう云ふ人は親として子供に對し全たく無責任の罪を免かれることは出來ません。母を失ふた不幸な子供をもう一層不幸にするのも、亦、幸福にするのも一つにかゝつて父親の覺悟にあります。再婚が子供に幸福を齎らす見込みがついてから、始めて再婚されることを私は、多くの父達に望みます。

今迄の處では、一般には、繼母は全く母ではありませんでした。母處ではなく、時によるとかたきのやうでありました。これからも婦人が人としては無人格、女性としては無自覺であるならば矢張り同じ狀態が續くでありませう。けれども、婦人が人として女性としての自覺と見識とを持ち、育兒が人類奉仕の聖職であることに氣付くならば、そして、努力するならば、無かつた愛を創造することによつて、妻に死なれ、母に捨てられた不幸

な人達を幸福にすることが出來ると私は信じます。

無いものから或るものを造るといふことは一寸不可能のやうに思へますが、決してそうでないと云ふ確信を私は持つて居ります。つまり、人の頭腦でも腕でもたゆみなき練習をつゞけることによつて、頭腦に、腕に、又は指の先きに或るものを得て行きます。明晰な科學的な學者の頭腦は始めつからそうであつたのではなく造つたものであり、音樂の名手も努力の結果造つたものであるやうに、情愛も努力の仕方によつては造られて行くものであります。始めは少しも可愛くない子供でも、其の子供を愛することが一家の幸福、女性としての天職、人類への奉仕といふ信念を持つて我と我が心に鞭打つて其の子供を愛すのです。こうしたら子供が喜ぶ、あゝしたら子供が淋しがると云ふことゝ始終念頭に置いて自分の行動をとるのです。そうすれば子供は自然に自分に接近して來ます。接近して來ればどうでもこうでも可愛くなつて來ます。可愛くなれば、もう自分の心に鞭打つ必要もなく、自然、子供の喜ぶやうに仕向けるやうになります。そして、子供と自分との愛情がだん〳〵濃くなつて行きます。そして、此處に御斷りして置きますが、この愛情創造の事業は全然母になる人の仕事であつて幼兒には何の責任は無いのであります。もし、繼母である婦人がそう云ふ覺悟を持つた場合には父

なる人は何を犠牲に供しても妻の其の愛情創造の事業を手傳つて完成させるやうに努力しなければなりません。又、努力する價値のあるものです。

けれども、父親がそんなことには無神經で、繼母が無自覺無反省で自分だけの利益しか考へられない人間としては小さい女性としては無價値なものであつては實際子供は可愛いそうです。そう云ふ子供は子として親に對する義務を少しも持つ必要はないと私は考へます。

親子關係が薄弱であるならば、社會はそれだけ薄弱であります。そして、それは絶對に子供の方の責任ではありません。再婚される男女がこの點を熟考されることを私は望んで止みません。

江渡樣に申上げます。まだ書き足りないやうな氣が致しますが、時間が切迫致しましたので一先づ筆を擱きます。どうぞ、御氣付きの點は御指摘下さいますやう願ひ上げます。

——●——

磯野秀之樣。婦人と新社會の愛讀者樣。市外の一靑年樣。丸の内の風浪生樣。御丁寧なる御批評やら、御懇切なる御忠告やらを有りがたう御座いました。出來るだけ御希望に添ふやうに致します。海外の婦人界の紹介を多くせよとの御注文がまだ外からも澤山御座いますが、實は海外の婦人界の傾向は我が婦人界に奨勵の意味で御紹介にとゞめて置くことが出來ず、一々批評を加へて居つては長くなり過ぎるし、と云ふやうな考へから、先づ、當面の問題の方が私共婦人にも直接關係があると思つて居りましたのです。けれども、出來るだけ御注文に應じるやうな方針をとることに致しませう。

内外時事評論

性的道徳と婦人參政權

『ボストンヘラルド』紙上に次のやうな記事があつた。米國人であるパーレー●アール●スパイカー大尉は戰事中、飛行將校として英國に行つてゐたが。在英中エミリー●ノールスといふ婦人と交際が始まり、遂ひに同棲となり其の結果一人の子供が生れた。休戰後大尉は單身米國へ歸つたが、後からエミリー●ノールスは子供を抱へて米國へ戀人なるスパイカー大尉を尋ねて來た。處で、移民局は彼女の上陸を拒んだ。其の理由はスパイカー大尉は既婚者であつて其の妻子はバルテモーアに住居してゐるからである。

處が、どう云ふ相談の結果であつたかは分らないが、其の大尉の妻が夫の戀人エミリーとエミリーの子供を自分の家庭に引きとるといふわけで移民局との折合ひがつきエミリーは遂ひに入國を許されたのである。そして、其の入國許可の條件としては、エミリーが大尉の實弟ガイ●スパイカーと結婚すること、エミリーの子は大尉夫妻が養育する、といふのである。そして、それが實現する迄のボンドとして大尉夫妻が千弗を積んでエミリーは無事米國へ上陸したのである。それより先きスパイカー大尉は移民局へ、エミリー●ノールスと云ふ婦人が紐育の波止場へ到着した時には出迎へに行くといふことを申送つて置いたのである。

移民局がエミリーの上陸を許したのは各關係人が證明した結果であるが、大尉の妻の口供書は

『私の夫とエミリー孃との間に友情が出來、そして、その友情は普通のもの以上に迄熟した。けれども、エミリー孃は決して移民法の規定に反するやうな不道德な婦人ではなく、彼女は温和な愛すべき婦人である。私は喜んで彼女を私の家庭へ歡迎する。同時に私は私の夫の心の傾向と人格を決して疑ふものでない。云々』である。そして、大尉の弟ガイ●スパイカーの口供書は

『私は喜んでエミリー孃と結婚する。私は彼女の性質の善良なるを知る故に、私は一生を通して彼女の眞實なる夫となることを盟ふ。』

であり、そして　大尉自身の口供書は

『私には一週百弗の收入がある、故に　子供は自分の子として立派に養育し得る』

と。そして、その口供書のうちには自分とエミリーとの關係が書いてあるのである。

で、　結婚後は弟のガイ●スパイカー新夫婦は新妻の以前の戀人であつた兄の家に同居することになつてゐるのである、そして、大尉の妻は夫の前の戀人と同居しても少しも不愉快を感じはしないと云ふ。そして、彼女は夫とエミリー孃との關係を「これも戰爭中の出來事のうちの一つである」と云つてゐる。

と云ふのであるが、これは米國の性的道德が如何にゆるくなつたかを示す一例である。多くの人間のうちには隨分突飛なことをするものもあるのでたゞ一ツの事件を捕へて一般を押し計るのは妥當でないやうにも思へるが併し、米國に於ける性的道德が以前のやうに嚴格であるならば輿論の力が到底移民局をしてエミリーの上陸を許下しない筈である。

忘れもしないピネロー作『第二のタンケレー夫人』は、（女優須磨子が演じたことのある劇であるが）以前自分が關係してゐた男と先妻の娘が結婚しやうとするので、どうかしてそれを止めやうとするけれども、以前の事情を娘にうち明けることも出來ず、唯々、その結婚を妨げやうとするので、遂ひに娘からあらぬ疑ひを受け、悶死するのであるが、これでさへも米國に於ては非常に不道德的なものだと云ふ輿論の下に排斥されてしまつたものである。其の外本國に妻があるにも

拘らず他の妻を持つたゝめに、或ひは妻以外の女性に關係したゝめに社會的に全く死刑の宣告を受けて再び立つことが出來なくなつた例は殆んど普通のことであつたが、今や婦人が權勢を得て婦人參政權も除々と全國に廣がろうとしてゐる時に性的道徳に對する輿論がゆるくなつてスパイカー夫妻の云ひ分のやうなものが通つて着々事が運ばれて行く此の事實は我々の大に考へて見なければならぬ問題であると私は思つてゐる。

何と云ふても米國は清敎徒の精神が根強くあつたので、其の道徳は健固であつたけれども婦人が外部的に勢力を張つて行くのと反比例に男子に對し性的道徳の要求がゆるんで行くのはどう云ふものであろう。

教養ある家庭顧問

亞米利加に於ては近來、家庭經濟の專門家の數が追々と殖へて來てゐる。今日迄の家庭經濟研究者は社會事業に經驗がなかつたが、この頃の家庭經濟の專門家は社會事業に經驗を得やうとして努力してゐる。そして、其の效果は現れつゝある。なぜなれば、彼等は下級階級におりがちな子供澤山の、從つて收支つぐのはざる困難な家庭經濟を整理することによつて家庭問題に關して緻密な智識を得つゝある。

今迄は社會事業に干與はる人は大低經濟學を納めた人であつた。故に、經濟學の智識は確かであつても社會の眞相には鈍かつた。

社會事業に干與はる人には經濟學の智識も社會學の智識も必要には相違ない、がそれよりももつと必要なことは、特に取り扱はうとする事實と其の事實を取り卷いてゐる事情に精通することである。

今度、東京市に出來た社會局のやうな處で働く人の養成所が紐育にあるが、其處の被養成者は一週間のうちの五日間は實地の見聞に歩く。そして、一日は講義を聞き、又は、討論をする。そして、半日は實際の經驗に付いて意見の交換をする。勿論、此の養成所に入るにはいくらかの資格が必要であるし、又養成所を出る時には相當の證明書が貰へるのである。

我が内務省でも埼玉縣北足立郡大門村に社會事業家養成所を設け、又、本願寺慈善財團や、司法省輔成會主催の同じ企てや　又は、四月十二日から開講される

と云はれてゐる協調會の社會技師養成所など實際時期に適した事業であるが、これは紐育で現に實行してゐるやうに講義よりも(勿論これも必要には相違ないが)事實の眞相に精通する方により多く努力されることを私は要求する。

ミゾリー州の兒童法案

ミゾリー州の兒童法案委員がミゾリー州會に其の議案を提出した時には勿論州の立法家は既でに其の仕事に付いては承知してゐた。で、此の法案の一部が直ちに通過したのは一九一七年であつて、其の後追々に通過して行き　今では殆んど其の全部が可決された。そのうちには新しく造られた條項もあるが、多くは既存の法律の標準を高くし、或ひは既存の法律と法律との間の調和をとつたものもある。

そのうちの一つの議案は、子供の世話をしない親、子供を捨てる親、無職業でゐて子供に惡事を敎へ、働かせる親、或ひは、兒童保護法の規定を破つて子供を働かせる親・或ひは、子供を心理的に適當に準備せずに子供を働かせる親、等は罰する法案である。それから又、少女の承諾有効の年齢を滿十六歳に引き上げる法案もある。そして、いくらかの曲折もあつたが今迄に通過した法律が三十五あつて、其のうちの敎育に關するものは次のやうである。

(1) 一つの學校區域内に十六歳以下で其の筋から屋外勞働の證明書を得て勞働に從事してゐる子供が二十五人以上あれば、普通の學校よりは時間の短い學校をこれ等の子供のために造ること。そして其の入費央は中政府及び州政府が補助金を支出すること。であつて、合衆國々會は其の目的のために次の二期に渡つて四十萬圓の支出を可決してゐる。

(2) 滿七歳から滿十六歳迄に義務敎育であること。がもし、前述のやうにして十六歳以下で勞働に從事してゐる子供があるとすれば、其の子供は一日四時間の授業を必ず持たねばならぬこと　そして、それは朝の八時から午後の五時迄の間でなければならぬこと、つまり、夜學では不可と云ふこと。そして、十八歳以下で規定の義務敎育を受けてゐないものは皆登校せねばならぬこと、そして、地方々々の學務委員

が其の監督の任に當り、其の規定を施行すること。

(3) 一つの學校區域内に聾者、盲目者、及び心身虚弱者が十人以上ある處には其れに適當な學校を設けること。もし、一區域内で十人に滿たない場合ひには隣りの區域と合併して學校を造ること。

(4) この特別な學校の監督は普通の學校の學務委員に依託すること。そして、各職員は免狀を持つたものでなければならぬこと。

等であつて、それから兒童の勞働に關する法律は次のやうである。

(1) 十四歳以下の兒童を營利の業につかしめてはならぬ。學校が休暇中は使つてもよいが、併し、仕事は農業又は家内勞働に限る。十六歳以下の兒童を雇ふ場合には就業時間を掲示せねばならぬ。

(2) 十六歳以下の兒童に危險な機械を使用させてはならぬ。又 鑛山或ひは地下の仕事に從事させてはならぬ。又、十八歳以下の女子は電信郵便の配達と云ふやうな通信用に雇つてはならぬ。

等であつて、其の外に子供の衞生に關しては特別な衞生局を設けること。兒童死亡の原因の研究、學童の體格檢査の監督、兒童の疾病の豫防 出産前三週間、出産後三週間のうちにある婦人を雇つてはならぬこと、及び、親が等閑にして置く子供を州立感化院へ入れることの禁止等である。

こういふ仕事は特に婦人に適したものである。故に餘裕あつて家庭を離れ得る婦人は進んでこう云ふ事業に參加すべきである。

校外兒童の善導

東京市内百八十七校の小學兒童は約二十萬人に上つてゐるが、放課後、世間から受ける種々の影響のために、兎角學校教育の効果を失はしめる事が多いとあつて、市教育課では過般十五區に一名づゝの校外兒童取締委員を設置し、家庭及び警察署長と連絡を取つて放課後に於ける小學兒童の監督誘導に勉むる事となつたと云ふことである。

尚ほ教育課では新しい試みとして、市内の各公園を小學兒童のために有効に使用させる目的の下に、歐米大都市の例に倣ひ、公園内に一名又は二名の指導者

則ち、『公園の小父さん』なるものを設けて兒童の個性を最も自然に發達せしめ且つ自然教育と遊戯との兩方面に關する拔指導を行はむとの計畫を立て、目下夫れ〳〵調査中であるそうである。

これは兒童のため、今日の處では財政の許す限りの殆んど最善の方法であるが、これをして有効ならしむるには各家庭の殊に母親の努力が必要である。どんなに有益な環境も各家庭の努力がなければ効果を見ることは出來ない。善良な家庭の子供が惡い環境から惡影響を受けるやうに、家庭が亂れて居れば折角周圍が造つた善良な習慣も家庭に於て打ち破されてしまう。學校の教師がどんなに苦心しても親が無頓着である結果は其れが何にもならないと同じである。

普通選擧と車屋

某貴族議員が『遂鹿戰も漸次盛んになつて來るやうだが俥屋の亭主などには——普通選擧が主張する憲政會や國民黨は俺れと餓き子を同一にすると主張するのだから投票は出來ない——と頑張つて居るさうだが、これが江戸ッ兒氣質と云ふものか知ら、斯麼語が出ようとは憲政會は勿論政友會とても豫期して居なかつたらう』と云つたそうだがこの車屋の氣持ちは私にはよく分つてゐる。何にもこの車屋が自分と餓子とを無理に別なものにしやうとするのではあるまいが、内容的に違つてゐるもの、つまり、とにかく自分には親方になる迄の苦心と經驗があり相當の思慮もそなはつてゐるのに、少しも苦心をしたことのない無經驗な無分別な頭を押へて引き廻してやる者が無ければまとまりの付かないやうな者と同じやうにされるのはいやであろう。私にしても女中の人格は何處迄も認めて女中の便宜はどんなにでも計つてやる。菓子一つでも主人や子供に與へるものは女中にも與へる。けれども、まだ全く思慮の足りない萬事に無經驗な女中に大事なことを相談することは出來ない。従つて女中の考へに權威を持たせて自分の考へをひつこませると云ふことは出來ない。けれども、デモクラシーは頭數で行くから少數の思慮の深い人生に經驗あるものゝ正しい考へはひつこまされて多數の無分別な無茶な考へが勢力を持つことになるであろう。

心のかげ

原田琴子

○

四月のある日の午後。

しごとに倦きた私は立つて家の外へ出た、そして椽の硝子戸に凭れたまゝしばらくはぼんやりと戸外のけしきをながめてゐた。

空は碧く晴れて樹木はみな嬉しげにあたゝかな大氣の中に息づいてゐた。櫻や乙女椿や海棠などの濃やかな花の匂ひがもはや春の來たことを感じさせた。小池の中に生き〳〵と延びた菖蒲の芽のそばに雀はしきりと水を浴びてゐた。まことに穩かな日であつた。

萬物は生育しつゝある！　左様思ふと共に私は自から涙ぐましい思ひに迫られた。

限りもない大空と、その大空にかゝつてゐる太陽の光の下にかくも生き〳〵しく見ゆる草木の姿とは何故に私の心を明ろくはせずに却て惱ましくするのであらうか、私の心には何の勇氣もない、生きようとののぞみもない、生に執着する欲望はみな燃えつきたのでもあらう。私は私の生存に塵ほどの價値をも見出でられないとは！　いかなる惡魔が私にめぐまれたライフ、フオース

ゑば奪ひ去つたことであらうか、愛する人々の上をも忘れはて、志したしごとをも打すてゝ、この世の歡樂の外に人間の知識の外に何處に何を求むるこのさびしい心であらう。

いつの間にか私は其處へ坐つたまゝぐつたりと手足を投げ出して固い柱へ頭を打ちつけてゐた

○

私は死んだ一人の叔母を一日として忘れるひまがない。はやくからあきらめてゐたせゐか、なくなつた當座はさほどにも感じなかつた。けれど、日が經ち月を重ね年を送るまゝに私の叔母を想ふ心はおひ／＼に深くなつてきた、叔母がこの世を去つたのは今ではもはや數年前の初夏のある朝であつた。

うつゝなく君が柩にそひゆけば初夏の野はたゞ青みたり

とその時よんだ歌も思ひ出されてくる。私は今も何かにつけては、もし叔母が生きて居たならば！と心の底から思ひ／＼する。叔母はすこしも私心のない人であつた、そして自分の身は忘れて他人のために盡す人であつた、その叔母の心かいつの間にか私の心に肉親の關係以上の尊い深い親しみを植えつけたのでもあらう、私の記憶に殘つてゐるのは叔母の容姿なぞよりも却て無形な言葉の方が多い。

○

私の親しい友達の一人は數年の間青森市に住んでゐた。訪ねてみたいとは度々思ひながら私は行くことが出來なかつた。ところがその友達がその土地を去つて後間もなく思ひがけない機會を得て私は東北の方へ行つた。そして青森市へもよつた。時は丁度あついさかりの八月であつた。私は陽に照されながらたゞ一人でセツ〳〵と青森の街を歩いた、時に立止つて港の蒼い波を眺めたり、八甲田山の姿を仰いだりしたけれど一向に心は慰められなかつた、友達が居たならば！とたゞ一つの事を停車場を出てから停車場へ歸るまで私は思ひつゞけてゐた。

ある年の夏私は上州から長野へ行く汽車の中で妙義山の姿を視た。それと同時に死んだ友達の一人がまざ〳〵と思ひ出された。その人とは生前さほど親しい間でもなかつたけれど、夏休みに歸省するたびによく妙義山の繪葉書へ「一緒に登山しようから」と書いてよこした人であつた。あの友達の故郷はこの近くなのだ！ と思ふと共に私は自ら頭の下がるやうな氣持がした、女子大學を出てから遠い北海道へ職を奉じて行くと間もなくその人は病死したのであつた。

○

十數年ぶりで私は故郷の生れた家に兩親と共に數ヶ月の間暮した。

追々に年とる兩親のみを家に殘して東京に自分の家庭を造つてゐた私はある事情から他家の姓に變つてゐた。が戸籍とか家督相續とかいふことをなんの重大な事にも考へてゐなかつた私はた

とひ私が戸籍の上で他家の者になつたからといつてそのために私と兩親の間に何の變更も起る筈はないことに考へてゐた。少くとも互ひの愛情の上に於ては。私は兩親の老後をいろ〳〵に考へて、場合によつては兩親のために自分の家庭を故郷に移すといふやうなことまでも思ひ廻らしてゐた。然し私のこの心持はあまりにも無殘に裏ぎられてしまつた。兩親の家に數ヶ月滯在する間に私はそれを知つた。何事につけても兩親はことに母は、私を他家の者だからと云ふのであつたそして何よりも大切なは家を嗣ぐ者であると云ふのであつた。

何故に家といふことをはなれて人といふことを考へられないのであらうか？　家といふ形式に囚へられて人の尊とい愛情をすら滅ぼしてしまふのであらうか？　私は母の心の底に潜んでゐる子供を思ふ情をば疑ふことは出來なかつた、とはいへ同時にその生命をば正しからざるものゝ手に委ねてゐる者に對する深い〳〵あはれみを感ぜずには居られなかつた。

○

ちいさい時から今に至るまで私はどんなにか遠い異國に憧れてゐたことであらう。黄昏のさびしい町はづれに立つて夕燒けに赤く染められた空をながめながらまだ見知らぬ國を慕うた心は十數年後の今もなほ鎭めるよしがない。事につけ折にふれて私の心は海を越えた國を懷ふ。その國には必らず何かよいことがあるだらうと思ふが故に。

落穂集

■四月三日に信州上田へ信濃日日新聞主催の講演會に行きました。あちらの皆様が婦人問題研究に御熱心なのに驚きました。講演が終つてから晩餐會の席上でいろ〳〵面白い御話が出ましたが其のうちで一人の教職にある方が『山田さんは今日善惡に付いて話されましたが、一體、善惡の標準は何處にありますか?』と云ふやうな質問をなさいましたが、此の人間界の善惡と云ふことは數學の答へのやうにキチンと割り出せるやうな性質のものではないと思ひます。

此の善と惡とに付いては古今の學者が論じつくして來たものでありますが、到底、理窟的には滿足な説明はありませんでしたけれども。それにも拘らず行ひの上にはちやんと區別して來ました。そして、其の善惡の標準は社會にあるか、個人にあるかの問題で、自分にもよし、他人にも善しと云ふのが則ち善なのです。實行上の標準としては其れで不都合ないと思ひます。行ふことによつて私共は善惡の區別をはつきり了解することが出來ます。結局善惡とは實行の問題であつて説明の問題ではなく其の時其の時に最善と思ふことを實行するのが則ち善であるのです。

只今は議論の時代ではない、實行の時代であると云ふ言を私はよく聞きます。そして、いつも可笑しく思ひます。私は議論と實行とは一致しなければならないものだと思つて居ますから。議論によつて方向を定め、其れに從つて行動を取るべきものだと思つてゐます。けれども、出來ない相談の議論、自分の生活とは沒交渉な議論、一元主義がいつの間にか二元主義に墮してゐる議論が隨分流行致します。宗教にしろ、政治にしろ、經濟にしろ、又、婦人問題にしろ、そう云ふ論客がなか〳〵少なくありません。そして、こう云ふ無責任な議論は世の中を混雜させるとも整理は致しません。墮落させるとも進歩はありません。で、私は今日の最大責務は人々が行ふことを云ひ、云ふことを行ふのだと思ひます。それが最も貴いことであり、人生の眞髓であると思ひます。

■この頃、女子教育家の代議士立候補がポツ〳〵あるやうです。けれども、私は、教育家が教育家としての

職務を果そうとすれば、殊更に政治家になる必要はないと思ひます。又、餘裕もない筈だと思ひます。我が國の如き、比較的少數な教職が多數の生徒を取り扱はなければならない國の教育家、殊に、校長は猶更餘裕がない筈だと思ひます。

政治は社會を外部から改良しやうとするものであつて、教育は社會の內部から、改良しやうとするもの、つまり、人間を善くしやうとするものであります。そして、いつの世にも外部からの社會改良家は澤山あつて、內部から改良しやうとする教育家は少ないものであります。內部からの改良は教育家を置いては外にありませんのに、其の教育家が多年の經驗を一層有效に利用しやうとはせず、無經驗な、或ひは、比較的無經驗な政治に參與することは人物經濟の上からも大變損失であろうと思ひます。

今の政界は腐敗して居りますから、教育家が其の中にとび込んで行つて、直接、政事に參與しやうとすることは其の心情に於ては贊成するものでありますけれども、其の結果に見るべきものがあるとは思へません、少なくとも教育を等閑にしたゞけを償へるとは思へません。ですから、私は教育家は教育家として努力されることを希望致します。

素人政治の時代が科學的政治に移らねばならないと云ふのが現代の要求であります。

[redacted]知人の家庭で女中を雇ひました。けれども、三日目に彼女は自分には勤まらないから暇を吳れと云ひ出しました。其の理由は、『同じお給金でも前に居たうちではお總菜を煮なかつた。おひるには煮豆屋のもので事が足りたし、夕飯には魚屋が、煮るものは煮て來るし、燒くものは燒いて來るから、自分は御飯さへ炊いて居ればよかつたが、こちらでは何にもかもしなければならないから骨が折れる。』と。本當にこれが今の若い者の心であると私は思ひました。女として、お總菜を煮ること位ひは機會があれば練習して置くことは自分の將來のためにも大變利益であるのですが、今の若い女はそんなことは考へずに唯々金高の多いことと樂なこと計りを考へてゐます。そして、これは現代の浮薄な思想界のとばつちりであるのです。

血色の文字

The Scarlet Letter

ホーソン作

廣場（二）

『けれでも、あゝ、どんなに其の恥のしるしを隠しても、あの女の胸のうちの苦しみは決してとれる時がないでせう。』と、子供を抱へた若い婦人が優しい口調で、毒づいてゐる中年の女の言葉を遮つた。

『恥のしるしがあの女の胸の上にあらうと、又は、あの女の額の上に燒印があらうと其れはどうでもいゝんです。それがどちらであつた處があの女が私共凡ての女性の顔に泥を塗つたことにはかはりはないのですから。一體、あの女は死なゝければならない筈です。そう云ふ法律は無いかしら？　あゝ、ありますとも／＼。聖書のうちにも法律の本のうちにもありま

すよ。だのに判事達は其の法律を無効にしたのですね。ですから、もし、判事達の妻や娘達が迷つたことをしたとしても、それは、判事達のためには自業自得ですよ。』と、其れ等の自分免許の裁判等の中の最も醜い薄情らしい女が叫んだ。

すると、群集の中の一人が大聲で『皆さん！　まア、何と云ふことだろう。斷頭臺と云ふ本當の怖れからでなければ、女には德が守れないと云ふのですか？　隨分ひどい事を云ふ人達だ！　靜かにしたらいゝでせう。騷々しい人達だ。あの戶が開きかゝつてゐるぢやありませんか。ヘスター・プリン夫人は今直ぐ此處へ出て來ますよ。』と叫んだ。

獄屋の戶は中から開かれた。そして、暗闇から明るみへ出て來たまつ黑な影のやうに、腰には劒をぶらさげ、官棒を手にした陰鬱な人相の惡い敎區吏が第一に現れた。彼の容貌は淸敎徒の法律の極端なる苛酷さを表示し

又、代表してゐた。何の用捨もなく、最も嚴格に罪人に法律を執行するのがこの役人の仕事なのである。彼は左の手で官棒を突きのばし、右の手を若い女の肩にかけて、其の女を引き出して來たのである。けれども、其の女は獄屋の入口の敷居ぎわで其の役人を押し退けてしまつた。生れながらの威嚴と人格の力を持つて彼女は彼を押し退けてしまつたのである。そして、恰も彼女自身の自由意志によつてのやうに彼女は戸口の外に現れて來た。彼女は彼女の手に生れてから三ヶ月位ひの赤子を抱いてゐたが、其の赤子はギラ〳〵した日の光りがまぼしいと云ふやうに目ばたきして、そして、小さい顏を横に向けた。生れてから、まだ一度も、牢室の又は牢屋のうちの他の場所のうす暗い處より外に居たことがないのであるから。

赤子の母である此の若い婦人が群集の前に自分の全身を現した時、彼女の最初の衝動は彼女の胸に赤子をしつかりと抱きしめることであつたが、

それは母としての愛情からと云ふよりも、むしろ、彼女の胸に縫ひつけられてある、或ひは、結び付けられてある或るしるしを隱くそうとすることであつたやうである。けれども、直ぐに、一つの恥のしるしを隱した處で他のもう一つの恥のしるし（赤子）を隱しきれるものでないことを敏くも悟つて彼女は彼女の腕に赤子を抱き上げて、そして、燃へるやうな赤い顏して、併し、高慢な微笑、少しも羞ぢらはない目をして、彼女の町の人々や隣人達を眺め廻した。彼女の胸に血色の文字が現れた。其れは立派な血色の布片のまわりを金絲の刺繍で精巧に風變りに飾り書きしたAと云ふ文字であつた。それは本當に豐な華美な意匠を用いた美術品であつた。そして、彼女が着てゐた着物の仕上げに縫ひ付けた裝飾品のやうであつた。彼女の服裝は其の當時の趣味に從つた立派なものであつた。そして、其の植民地の質素な習慣によつて許されたもの以上に贅澤ならものであつた。

この若い婦人は背が高くて、先づ、完全に立派にとゝのつた容姿をしてゐた。彼女の髮は黑く房々してゐて太陽の光線が反射する程に光澤をもつてゐた。顏の輪廓はキチンとしてゐて豐な色つやが美しく、立派な額と濃い眉と、黑い深い目は愛くるしく、人に强い印象を與へずには置かなかつた。彼女は實に淑女らしかつた。其の當時の女らしさの標準に從つて淑女らしかつたのである。其の當時の女らしさの特長と云ふのは、今日の華車な消へ易いやうな、何とも名狀することの出來ないやうな品のよさではなく、或る位置と威嚴を備へた品のよさであつたのである。そして、彼女が牢屋から出て來た時程、本當に文字通りに淑女らしく見へたことはなかつた。不幸な雲にとざされて陰欝になりきつてゐるヘスターを見るであろうと豫想してゐた彼女の以前の知人達は、彼女の美が光り輝いてゐて、しかも、不幸と恥から後光を造つてゐるのを見て、實際異樣な思ひをしたので

ある。否、びつくりさせられたのである。とは云つても、勿論、見物人は彼女が確に云ふに云はれぬ苦しみを堪へ忍んでゐると云ふことは感じてゐた。今、此の場合ひに着るために彼女が獄中で、自分で意匠をして造り上げた彼女の着物は異様な特種な恰好をしてゐるが、これは絶望的な、むしろ、無頓着になつた彼女の精神を表示したものであらう。けれども、凡ての人の目をひいた點は彼女の胸の上に巧みな刺繍で飾り書をしてあつた血色の文字が光つてゐることであつた。そして、其のために、以前から彼女と知り合ひであつた男も女も恰も始めて見る女のやうな氣持ちで、ヘスター・プリンを見るのであつた。それ程、其の文字は彼女の容貌を變へ、異つた印象を人々に與へるのであつた。其の文字は彼女一人を普通の人間關係から切り離して、一つの範圍内に取りかこんでしまつたやうな一種の魔力を持つてゐたのであつた。（未完）

編輯を終りて

二十七年目で去年の六月上旬本國を後に歸國した私共の一人の友は胸一杯にひろがつた結核を抱へ、行李に若き妻と幼兒の遺骨を携へて横濱埠頭に着きました。出迎へた私共の顔を見て彼は唯ハラ／＼と涙を落すだけで一言ものが云へませんでした。母に死なれた三つの時から今年十五になる迄私共の手許で育つた彼の一人子を見ても彼は『大きくなつた』と一言云ふことも出來ない程、唯、胸がふさがつてしまつて居るのでした。彼は片手を私の夫の肩に片手を私の肩にかけて久しぶりで日本の土地を踏みました。以來今月の十一日迄彼は私宅の二階に寢たぎり一度も立ち上がることさへ出來ませんでした。十有餘年の間夢に計り見てゐた自分の一人子が食事する茶間へさへも一度も來ることが出來ませんでした。

私は櫻がほころび始むるのを待ちかまへて一枝彼の枕許に挿してやりました。彼はしやがれた聲で『オーア』と云ひました。彼にほめられた花の王、日本の誇り、櫻は立派だな其の櫻は忽ち彼の棺を飾る花となりました。其の翌くる朝高く積んだ蒲團によりかゝつたまゝ眠るやうに火の消へるやうにフツト息が絶へてしまつたのです。死の床の上に櫻はヒラ／＼／＼と散りました。お通夜をする代りに又は遺骸を火葬場に託して來てから、もう火はついたなど考へながらまとめねばならなかつた此の五月號！……不吉なお便りを書いたことを皆様お許し下さいませ。

本誌定價表

一册	前金	金二十五錢	送料五厘
六册	前金	金壹圓四十錢	送料不要
十二册	前金	金貳圓七十錢	送料不要

○誌代及郵税は前金の事御送金の際は振替貯金東京四一〇七七番に御拂込みのこと（郵券代用は五厘切手にて一割増）
○廣告は御照會次第御相談いたします

大正九年四月二十五日印刷
大正九年五月　一日發行

東京本郷湯島四ノ三
編輯兼發行人　阿部仙太郎

東京神田仲猿樂町十七
印刷人　大杉直次郎

東京本郷區湯島四ノ三
發行所　東洋出版社
振替東京四一〇七七番

本邦唯一の性慾研究機關

毎月一回發行

性

主幹澤田順次郎

●大正九年一月創刊號發行

一號及二號定價金拾五錢送料金五厘
參號より改正定價金廿錢送料金五厘
六部前金送料共 金壹圓貳拾錢
拾貳部前金送料共 金貳圓參拾錢

重なる執筆者

醫學博士大澤謙二　文學博士加藤玄智
法學博士大塲茂馬　早大教授安部磯雄
醫學士高峰博　名古屋日報主筆青柳有美

（注意）本誌は毎號紙型を保存し置き以て創刊號より幾百幾千部の御注文にも應ずる事を得又本誌は月後れなりとて定價の割引を爲す事なく又殘本にして市場に出づる事絶體になし

發行所　東京市神田區中猿樂町十七番地　振替口座東京四七七九三番　天下堂書房